

令和4年度 山形城北高等学校 修了式 式辞（令和5年3月23日）

2月、3月は慌ただしく、気がつく今日は今年度最後の登校日となりました。3年生が卒業したこともあり、なんとなく寂しく、新入生の入学が待ち望まれるところですが、2週間あまり経つと、今年も386名の新入生が入学します。本校の募集定員は340名ですが、専願だけでほぼ埋まっているという状況で、これも皆さんの様々な活躍があつてのことと感謝します。

さて、修了式を対面でやるのは、コロナ以来、初めてになります。コロナは5月には感染症の分類で《5類》というインフルエンザと同じ扱いになる見込みですので、基本的に学校生活はコロナ前に戻ることになります。皆さんは、コロナが始まったのは中学2・3年生の時からで、私もそうですが、最初はあまり深刻に思わなかったのではないのでしょうか。

今振り返ると、タレントの志村けんさんが亡くなったと聞いたときは衝撃で、それがコロナは他人事ではないと感じた始まりだったような気がします。結局、コロナで亡くなった方は日本人だけでも6万人を優に超え、もしかしたらこの中にも、家族を失ったという人がいるのかもしれませんが。臨時休校や行事の中止、縮小など、できなかったこともたくさんありましたが、ようやく収束が見えてきた感じます。

この3年間、マスクをしたりワクチンを打ったり、できる限りの感染予防策をとってきたわけですが、よくよく考えてみると、コロナが収束に向かっているのは、まぎれもなく「時間の力」とも言えます。人類が撲滅できた最初の、そして現在のところ唯一の感染症は天然痘なのですが、コロナについては変異のスピードが速く、ワクチンはそれに追いついていないのが現実です。何かを解決するのに「科学の力」は偉大ですが、「時間の力」も相当なものだということがわかるでしょう。大抵のことは時間が解決してくれる、それもまた真実です。

話題を3月1日に行われた卒業式に移します。

ご承知かと思いますが、卒業式終了後、ピアニストのハラミちゃんがサプライズゲストとして演奏してくださいました。今年の卒業生は、幼稚園・保育園を終える年に東日本大震災があり、中学校を卒業する時にコロナが始まり、いずれも卒業式は中止になるか縮小されるかという学年でした。高校3年間もずっとコロナ禍にあり、修学旅行にも行けないなど、ことさら不自由を強いられた学年ですので、最後に何か思い出に残るプレゼントをと思って企画しました。

もともとは、城北祭のゲストに呼びたいというのが始まりだったのですが、スケジュールが合わず、今回になりました。卒業生は勿論、先生方にもほとんど知らせていませんでしたが、テレビ局とは詳細を打合せ、夕方の特集が組まれたという経緯です。本校のホームページにはサプライズの場面だけを編集した動画をアップしています。再生回数は、現在45万回まで達しており、SNS上で情報が広がるスピードの速さには驚くばかりです。

テレビを見た人たちから、「感動した、涙が出た。」といった感想がたくさん届いたのですが、サプライズを仕掛けた身としては、上手くいくかどうか不安がいっぱいで、私自身は終わった時に感動というより安堵の気持ちが強かったです。それでも、卒業生や保護者の皆さんにたいへん喜んでいただけたのでやって良かったと思っています。正門前の看板も、卒業生とハラミちゃんの集合写真になっていますので、帰りにぜひ見てください。

さて、今月15日からマスクの着用は強制されないことになりましたが、卒業式でのマスク着用も個人の判断としました。実際どうだったかというと、見た感じではありますが、卒業生のおおよそ4割が外し、6割くらいは付けたままでした。そして、マスクを外した生徒は圧倒的に男子が多く、女子は付けたままというケースがほとんどでした。全国の卒業式の様子をネット検索すると、この傾向は本校だけに限らないということも分かりました。

卒業式という晴れ舞台でもマスクを外さなかった理由は様々でしょうが、思春期の女子は他人の目を気にする傾向が強くなることが指摘されています。自分の意思にかかわらず多数派に合わせてしまう、とりわけ初めてのことは、とりあえずみんなと同じ行動をとるといった経験はよくあるでしょう。服装や髪型などに気を配りやすい女子は自己意識が高く、特に思春期においては友人関係を維持することを優先し、周囲の視線に敏感になるのかもしれません。

こういった迷いながらも周りの意見や行動に合わせてしまうメカニズムを「同調行動」と言います。例えば、LINEのグループ内で、みんなでカラオケに行かない？と誘われると、本当は行きたくないのに行くと答えてしまう、これは同調行動です。同調行動そのものは否定されるものではないのですが、自分の意思に反した行動をとり続けると当然ですがストレスを感じます。

一般には、高校生年代になると「自分は自分、他人は他人」という意識が芽生え始めます。いわゆる「自我の確立」です。なので、みんなと同じ言動をとることに違和感を持ち始めたということは、それは成長の証ともいえるわけです。そうはいつても、大人になっても違う行動をとる人は許せないという人もいたりするので、中々やっかいです。

LINEで自由参加と書いてあったので不参加と回答したらグループから外されたとか、気を遣わないでいいと書いてあったので何もしないでいたら「既読スルーされた」と言われたとか、どちらにせよ気を遣うことが多々あります。

いずれにしても、他人のことなど気にせず自分らしさを表現するのも有りだし、ストレスと感じないなら周りに合わせても構いません。卒業生が最後の学年通信に寄せた一人一言を読むと、「JK卒業」を高らかに宣言していた生徒がたくさんいました。そう、高校を卒業したら「トイレに一緒に行かない？」なんてもう言えなくなることはちゃんと分かりながら、同調行動をとっているのです。

悩みや不安というのは自我の確立期である青年期の特徴で、いつまでも続くわけではありません。それでも迷路に迷い込んでしまったら、信頼のおける人に相談することです。また、冒頭述べたように「時間の力」は偉大で、病気以外のことであれば、大抵は時間が解決してくれます。自分の力が及ばぬ時は他の人の力を借りる。それでもダメな時は、時間の力を信じることです。何とかあります。

まずは今後マスクを着けるのか、何かを機に外すのか、悩んでください。商品ケースに並ぶケーキを自分で選ぶのは楽しいように、自己決定はそれだけで生きがいになります。それについてはまた別の機会に話します。それでは、春休み事故なく過ごし、4月6日の始業式で元気に会いましょう。